

MIRAI

Disaster Reduction and Human Renovation Institution

阪神・淡路大震災記念

人と防災未来センターニュース/開館記念号VOL.1

発行／阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
〒651-0073 神戸市中央区諭浜海岸通1-5-2 TEL.(078)262-5060
ホームページアドレス <http://www.dri.ne.jp/>

阪神・淡路から、
人と未来のために。

阪神・淡路大震災記念

人と防災未来センター [1期施設]

平成14年4月27日、HAT神戸にOPEN



人と防災未来センター、いよいよ開館。

阪神・淡路大震災を契機にした防災・減災に対する人々の切実な願い。人と防災未来センターは、それを世界に先駆けて具体化する防災拠点として設立されます。平成14年4月には、展示や広域支援、人材育成、調査研究等の機能を備えた1期施設がオープン。また、平成15年春には、いのちの尊さと共生の大切さを発信する展示機能とアジア防災センターをはじめとする防災関係機関が入居する2期施設が誕生します。今回発行する“MIRAI”は、センターでの研究成果をはじめとして、展示内容などタイムリーな活動の様子を紹介していきます。

ごあいさつ

兵庫県知事

井戸 敏三



開館によせて

防災担当大臣

村井 仁



忘れない、しかし忘れられない。忘れてはならない。

阪神・淡路大震災は、県下に多大な被害をもたらす一方、「いのちの尊さ」をはじめとして、私たちに多くの貴重な教訓を残しました。時間の経過により震災の記憶が風化しつつあるいま、これらの教訓を後世に継承し、災害による被害の軽減に貢献していくことは、被災地である兵庫県の責務だと考えます。

その取り組みの一つとして整備を進めてきた、阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」がいよいよオープンします。

このセンターでは、災害に関する実戦的な調査研究や、災害対策の専門研修などによる人材育成と併せ、大規模災害が発生した際には、すみやかに専門家を現地に派遣して、助言を行う支援活動を展開していきます。また、地震発生直後の被災地の様子を映像で伝えるシアターや、破壊されたまち並みを再現したジオラマ模型などの展示により、震災の経験と教訓を次世代に伝えています。

大自然の大きい力の発現である地震は避けることはできません。しかし、あらかじめ備え、過去に学ぶことにより、その被害を最小限にすることはできます。

センターに隣接する国連人道問題調整事務所やアジア防災センターなど、国際的な防災機関とも密接な連携を図りながら、世界に貢献する防災戦略拠点として、災害による被害軽減をめざし全力をあげていきますので、皆様方には、今後より一層のご理解とご協力を賜りますよう、心からお願いします。

6,400名を超える尊い命を奪い、阪神・淡路地域に未曾有の被害をもたらした阪神・淡路大震災から7年余が経過しました。この間、住民の方々と、地元地方公共団体、政府が一体となった取組により、被災地の復旧・復興が着実に進展してまいりました。地元の関係者の方々の懸命の御努力に対し、改めて敬意を表します。

政府としましても、震災発生直後には、内閣総理大臣を本部長とする「兵庫県南部地震緊急対策本部」を設置し、被災者に対する救済措置、道路、鉄道、ライフライン等被災施設の早期応急復旧、仮設住宅の建設などの当面の住宅確保など、応急対策に全力を尽くすとともに、5年間にわたって、内閣総理大臣を本部長とし、全閣僚で構成する「阪神・淡路復興対策本部」を設置し、各種のインフラ整備やライフラインの復旧、住宅対策を始めとする被災者の生活支援対策、中小企業対策を始めとする経済の復興などに対し、総額5兆円を超える国費を投じ、復興に向けた取組を最大限支援してまいりました。こうした中で復興特定事業と位置付けられ、兵庫県において整備が進められてきた「人と防災未来センター」が関係者の方々の御努力により、無事に開館となりましたことを心よりお祝い申し上げます。

平素からの災害への備えは、災害が起きたときの被害を最小限に抑えるために大変重要なことです。政府としても阪神・淡路大震災による貴重な経験・教訓を生かし、正確・迅速な情報の収集と果敢な意思決定を行える防災・危機管理体制等を整えてまいりました。「人と防災未来センター」におきましては、大震災に係る資料の収集・保存を通じた地震防災に関する知識の普及・啓発、総合的な防災対策の調査研究などとともに、地震対策などに必要な人材の育成が行われることとされております。

政府としても支援を行い、これらの事業が確実に推進され、大震災の経験・教訓が今後の災害対策に活用されるものと期待いたします。

大震災の経験と教訓を継承し、 共に生きる素晴らしさを発信。

人と防災未来センター
センター長 河田 恵昭
(京都大学防災研究所巨大災害研究
センター長・教授、兵庫県参与)



阪神・淡路大震災のような自然災害は、私たちの周囲に突然やって来ます。ひとたび災害が発生すれば、多くの人命が失われ、家屋や財産も被害を受けます。また、水道・電気等のライフラインが途絶し、社会活動そのものが麻痺してしまいます。

こうした大災害は、わが国だけに発生するものではありません。ここ数年をみても、トルコ、台湾、インド、最近ではアフガニスタンでも大規模な震災が発生しております。また、最近では地震以外にも、東南アジア等では地球温暖化に伴う集中豪雨の頻発による大規模な洪水災害も頻繁に発生しております。

これらのことから、今、世界では防災のために何をしなければならないかが問われているといえます。その一つのこたえがこの「人と防災未来センター」です。

このセンターは、阪神・淡路大震災の経験と教訓を後世に継承し、災害による被害の軽減に貢献するとともに、いのちの尊さや共に生きることの素晴らしさを発信する施設です。



このセンターは、6つの機能を持っています。1つめは、調査研究機能です。災害の専門家10名の上級研究員を中心とした指導のもとに、10名(初年度は7名)の専任研究員を配置し、実戦的な調査研究を行います。2つ目は、人材育成機能です。調査研究活動を通じて、専任研究員を、災害対策の専門家に育てるほか、国や地方公共団体の防災職員の研修を行い、大震災の経験と教訓を災害対策の現場に生かしていきます。3つ目は、広域支援です。大規模災害発生時に、専門家を被災地に派遣し、支援活動を行います。4つ目は、神戸東部新都心に結集する防災関係機関を中心に、内外の関係機関とネットワークする交流機能です。情報誌を発行するほか、セミナーなども開催していきます。5つ目は、展示機能です。阪神・淡路大震災の発生から復興が進む現在までの

被災地の姿を、映像や資料で伝えるとともに、災害や防災に関する最新情報を発信していきます。そして6つ目は、資料収集・保存機能です。阪神・淡路大震災に関する書籍や実物資料等を収集・保存します。



このセンターの正式名称は7,612件もの公募による候補から選ばれました。様々な議論が交わされたが、阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」という名称は、阪神・淡路大震災をきっかけに創設されたこのセンターが、「人のいのちの大切さや共に生きることの喜び」と、「防災」の重要性に関する情報を未来へ発信し、積極的にその活動を支援していくという決意を込めています。

このセンターは、起こったことを記録として残しつつ、二度と同じことが起こらないよう前向きの教訓を残す施設です。展示を見学してもらったあともう一度来たいと思ってもらえるような施設にしていきたいと考えています。当面は震災中心の展示でいきますが、いずれは土砂災害、高潮、津波、洪水など災害全般を扱うようにしたいと考えています。被災者をはじめ国民の皆さんの協力もいただきながら、みんなで大きく育てていくセンターだと思っています。



私は、このセンターから将来の防災を担う人間をどれだけ輩出できるかが重要だと思います。防災研究を志す人たちの登竜門となるセンターにしていきたい。それから、

大震災を記念してきた施設ですから、いろいろな方から受けたご恩をきっとお返ししたいと思っています。そのため、大きな災害が起きたときには、少しでも早く被災地に駆けつけて災害対策に関する助言をさせていただこうと思っています。また、展示は特に子どもたちをターゲットにしていきたいと考えています。安全で安心なまちづくりを子どものころから意識できるようなメッセージを送り続けたい。これから社会を担っていくのは子どもたちですから。

これからは、当センターを中心に防災関係機関が集まってきて、ここが防災研究の拠点となっていきます。ここで育成した若い人材が、国内だけでなく世界の最前線へと果立っていくことになります。そして、当センターを災害への有効な対策の発信の地にしたいと考えております。

地震と災害の総合的研究のために 多彩な人材が集まりました。

■上級研究員紹介



二次災害を最少にする
取り組みを。

沖村 孝 OKIMURA TAKASHI
現職／神戸大学都市安全研究センター教授 生年／1944年 出身／兵庫県 最終学歴／神戸大学大学院工学研究科 専門分野／地盤防災工学

私のセンターでの担当は二次災害となっていますが、本来は土砂災害が専門です。今回の兵庫県南部地震では地震時に六甲山系で崩壊が発生しましたが、その後の降雨によりさらに崩壊が数多く出現しました。現在は地震後の降雨による崩壊のメカニズムについて研究しています。地震による二次災害は崩壊や津波など物理的な現象のみならず、都市においては連鎖性や波及効果なども発生します。このような社会工学的な現象をも対象にして、二次災害の特徴をとりまとめ、その原因を明らかにし、防災の視点と減災の視点から二次災害を少なくする取り組みについて考えていきたいと思っています。地震後に受けた教訓をいかに生かすことができたのか、自分自身が体験した出来事を通してこれから防災に携わる若い人たちに語り継ぐことも、私に与えられた大きな課題であると考えています。



市民力と行政の協働。
その解を見つけたい。

立木 茂雄 TATSUKI SHIGEO
現職／同志社大学教授 生年／1955年 出身／兵庫県 最終学歴／トロント大学大学院ソーシャルワーク研究科 専門分野／社会学(家族社会学・市民社会論・防災社会学)

この7年あまり、震災後の復旧・復興のプロセスにいくばかりか関わってきました。今ふりかえって思うのは、社会が巨大災害に見まわれたときに、人の命を守り、被災後の生活を支え、一人ひとりの復興をすすめていくには、行政による公助だけでは限界があり、自助・共助の働きが不可欠だということです。市民力を基本として、その上で行政とどのように協働するか。その解を見つけることが防災にかぎらず、身近な地域の福祉や環境の未来にとっても共通する課題だと思います。人と防災未来センターが総合的なくらしの安全や安心の研究を進めるセンターになっていけばよい、と願っています。



新しい災害医学・災害医療の
発信に向けて。

甲斐 達朗 KAI TATSURO
現職／大阪府立千里救急救命センター副所長 生年／1951年 出身／大阪府 最終学歴／兵庫医科大学 専門分野／救急医学・災害医学・国際保険学・外傷学

阪神・淡路大震災を契機としてわが国の災害医療体制が構築されつつあります。従来の医療と異なり災害医療を円滑に行うためには、行政対応・応急避難対応・交通対策(患者搬送対応)・地域あるいは医療機関のインフラ対応・災害情報対応など、異なる組織との連携・協働が重要となります。人と防災未来センターでは、これらすべての専門職が一堂に会しておき学際的な研究、実践的な活動ができると期待しています。阪神・淡路大震災を経験した神戸から災害対応におけるIntegrationとCollaborationに根ざした新しい災害医学・災害医療を発信できるものと思っています。



地震災害に打ち勝つ21世紀の
都市づくり・社会づくりのために。

中林 一樹 NAKABAYASHI ITSUKI
現職／東京都立大学教授 生年／1947年 出身／福井県 最終学歴／東京都立大学大学院工学研究科 専門／都市防災学・都市計画学

日常の都市計画を研究していましたが、1976年の酒田大火直後の一晩にして焼け落ちた被災地を目の当たりにして、都市の防災計画の研究を始めました。とくに地震災害を中心として、ソフト対策としての防災対策及びハード対策としての防災都市計画のあり方に関する研究に取り組んできました。

阪神・淡路大震災は、都市型地震災害として、我が國のみならず世界の都市が学び取るべき多くの課題を人類に突き付けました。この「人と防災未来センター」が、地震災害に打ち勝つ21世紀の都市づくり・社会づくりに寄与できるように、様々な活動とともに、基礎的な研究も積み重ねて行かねばならないと考えています。



安心安全な防災都市のために、
実務経験を生かしたい。

小林 郁雄 KOBAYASHI IKUO
まちづくり会社コー・プラン/CO-PLAN Inc.代表 阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク会員 生年／1944年 出身／愛知県 最終学歴／大阪市立大学大学院工学研究科 専門分野／まちづくり・都市計画学・建築学

学術的な専門家の色合いの濃い上級研究員のなかで、救命・救急対応の甲斐さんと並んで、実務現場の専門家としてインフラ対応を担当します。特に、市民まちづくり支援、住宅再建居住サポートなどを、阪神・淡路大震災ではもっぱらに自らの責務としてきました。それらプロセス対策やソフト施策の重要性を、都市基盤再生・整備や都市計画・設計などハードに偏りがちな「インフラ対応」という分野で、確実に認識できるような研究活動を進めたいと考えています。そうしたプロセスプログラムこそが、大規模災害に「うたれ強い」安心安全な防災都市のために最も必要な「まちづくり基盤」であると思うからです。



災害からの経済復興に、
よりよい政策的指針を。

林 敏彦 HAYASHI TOSHIHIKO
現職／放送大学大学院文化科学研究科政策経営プログラム教授
生年／1943年 出身／岡山県 最終学歴／大阪大学大学院経済学研究科、米国スタンフォード大学

センターでは経済復興に関係する問題を担当することになっている。経済的被害の簡易推計法開発、贈与経済の役割、都市経済の被害特徴の分析、経済復興とまちづくり、都市型災害からの復興課題、経済復興と雇用、復興における国と地方公共団体の役割、エクストラな復興策とエクストラオーディナリーな復興策など、研究課題は数多い。センターでは、これまで復興政策に委員として関与してきた経験を学問的に整理し、若手の研究者と経験を分かち合い、よりよい災害復興の政策的指針をまとめることを目標としたい。

センターでは、国内外の関係研究機関や研究者と連携して、広域支援を視野に入れた実戦的・総合的な調査研究を行い、総合防災学とも呼べる知識体系の確立を目指していきます。開館とともに着任する上級研究員と専任研究員をご紹介します。

Message



被災地の復興を見届け、その教訓を広く発信。

林 春男 HAYASHI HARUO

現職／京都大学防災研究所巨大災害研究センター教授 生年／1951年 出身／東京都 最終学歴／カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)大学院 専門分野／社会心理学(災害時の人間行動/防災心理学)

人と防災未来センターの出発点は1995年の阪神・淡路大震災です。復興もまだ途中です。したがって被災地の復興を見届け、その教訓を広く発信することはセンターの重要なひとつ機能であると思います。足元をしっかりと見ることはセンターが大きく育つ基本になると考へ、研究を進めたいと考えています。その活動を通して、被災地の人たちがこのセンターを自分たちのセンターであると考えてくれるようになるように努力したいと思います。



災害時の交通・輸送対策の課題を抽出し、円滑な搬出・復旧活動に。

森津 秀夫 MORITSU HIDEO

現職／流通科学大学教授 生年／1951年 出身／兵庫県 最終学歴／神戸大学大学院工学研究科 専門分野／交通計画

交通は我々の日常生活や社会経済活動に必要不可欠なものです。災害時においても救出活動や復旧活動が円滑に行われ、人々の生活が維持されるためには、道路をはじめとする交通基盤がその機能を果たさなくてはなりません。そこで、阪神・淡路大震災時の交通状況データを再整理し、災害時の交通・輸送に関する課題をあらためて抽出したいと思います。そして、それをもとに防災用交通・輸送シミュレータを開発し、災害時の交通・輸送対策の評価や防災機能を考慮した交通計画のあり方を検討したいと考えています。



災害情報の理解とそのハンドリングのノウハウを伝えるために。

廣井 倭 HIROI OSAMU

現職／東京大学社会情報研究所長 生年／1946年 出身／群馬県 最終学歴／東京大学大学院社会学研究科 専門分野／社会心理学、災害社会学

災害情報の調査研究をはじめて25年にもなる。大雨警報や津波警報、避難の勧告・指示など、住民の生命にかかわる重要な情報を被害の減少につなげることが課題だった。しかし、阪神・淡路大震災は災害情報の別の意味を教えてくれた。防災機関における初動態勢にとって情報がいかに重要か、膨大な数にのぼった被災者に必要な情報をいかにして伝えるべきかなど、数えあげればきりがない。この震災の経験を生かして、災害情報の理解とそのハンドリングのノウハウを伝えていきたい。

■専任研究員紹介



柄谷 友香 KARATANI YUKA

■専門分野／土木工学、災害対策
経歴／関西大学大学院工学研究科土木工学博士前期課程修了、京都大学大学院工学研究科土木システム工学専攻博士後期課程、博士号取得見込み。京都大学防災研究新巨大災害研究センターCOE研究員、助手。



越村 俊一 KOSHIMURA SHUNICHI

■専門分野／津波
経歴／東北大学大学院工学研究科博士後期課程修了、博士(工学)。日本学術振興会特別研究員として、米国海洋大気局客員研究员、東京大学地質研究所特別研究员を歴任。



越山 健治 KOSHIYAMA KENJI

■専門分野／都市安全、都市防災計画
経歴／神戸大学大学院自然科学研究科修士課程修了、博士(工学)。(株)富士総合研究所を経て、神戸大学大学院自然科学研究科助手。



菅磨志保 SUGA MASHIHO

■専門分野／災害ボランティア、災害弱者
経歴／東京都立大学大学院社会科学研究科修士課程修了。東京都社会福祉協議会、東京ボランティアセンター専門員を経て、早稲田大学理工学部非常勤講師、同大学地域社会と危機管理研究所客員研究员など。



永松伸吾 NAGAMATSU SHINGO

■専門分野／国際公共政策
経歴／中央大学法学院政治学科卒、大阪大学大学院国際公共政策研究科博士後期課程、博士(国際公共政策)。大阪大学大学院国際公共政策研究科助手、Asian Disaster Preparedness Center客員研究员。



秦 康範 HADA YASUNORI

■専門分野／都市防災、ライフライン
経歴／大阪大学工学部精密工学科卒。(株)日本総合研究所退社後、東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学専攻博士課程修了、博士(工学)。



福留邦洋 FUKUTOME KUNIHIRO

■専門分野／都市科学、都市防災
経歴／東京学芸大学教育学部地理学学科卒、東京都立大学大学院都市科学研究科都市環境・構造研究室博士号取得見込み。東京都立大学チーフアシスタント、同大学ティーチングアシスタント。



人と防災未来センターを「安心創造の場」として。

室崎 益輝 MUROSAKI YOSHITERU

現職／神戸大学都市安全研究センター教授 生年／1944年 出身／兵庫県 最終学歴／京都大学大学院工学研究科 専門分野／建築、都市防災、広域避難

人と防災未来センターの役割は、第1に震災の教訓を継承するのではなく発展させること、第2にその発展進行形の教訓を持続的に発信し続けること、第3にその発信を踏まえて安全と安心の文化形成のエンジンとして機能すること、にある。この意味で、單に博物館でも資料館でもなく、また研究施設でも研修施設でもない、「安心創造の場」としての新しい内実を、共考と協働を通じて実現していくことが、ここでは問われている。

from 5.46 am 1.17 1995

阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」開設までの歩み

1999(平成11年)

- 2.17 (財)阪神・淡路大震災記念協会に「阪神・淡路大震災メモリアルセンター基本構想検討委員会」を設置
- 5.2 阪神・淡路大震災メモリアルセンター基本構想のとりまとめ・公表
- 6.2 阪神・淡路大震災メモリアルセンター構想推進協議会の設立
- 6.12 阪神・淡路大震災メモリアルセンター構想推進協議会専門委員会の開催
- 6.28 阪神・淡路大震災メモリアルセンター整備構想のとりまとめ・公表
- 11.12 國土庁長官が記者会見で「メモリアルセンターの施設整備費について11年度補正において所要の補助金を計上する。運営費についても平成12年度以降の各年度において所要の補助金を計上する。」旨発表。
- 12.9 国の平成11年度第2次補正予算(11月補正)が成立。メモリアルセンター施設整備費(約60億円)、うち国庫補助金(約30億円)が予算措置される。
- 12.24 メモリアルセンター運営費補助金(12年度分63百万円)が盛り込まれた国の平成12年度当初予算が閣議決定

2000(平成12年)

- 1.29 「阪神・淡路大震災メモリアルセンター設計プロポーザル選考委員会」の設置。第1回委員会を開催し、選考基準、プロポーザル作成要領を検討
- 2.26 第2回選考委員会において、最適設計者を選定
- 3.22 1期設計委託契約締結
- 5.8 第1回「展示・交流検討委員会」開催
- 5.19 第2回「展示・交流検討委員会」開催
- 5.26 第1回「人材育成等検討委員会ワーキング会議」開催
- 5.27 第2回「人材育成等検討委員会ワーキング会議」開催
- 6.17 第3回「展示・交流検討委員会」開催
- 8.28 第4回「展示・交流検討委員会」開催
- 9.18 ヘルスケアパーク構想のうち県立のミュージアム部分をメモリアルセンター2期として整備することを決定
- 9.29 2期設計委託契約締結
- 10.14 第1回メモリアルセンターフォーラム開催
- 10.27 第5回「展示・交流検討委員会」開催
- 12.12 第3回「人材育成等検討委員会ワーキング会議」開催
- 12.27 第1回「人材育成等検討委員会」開催

2001(平成13年)

- 1.6 1期建築工事安全祈願祭開催(工事着工)
- 1.15 センター長に河田恵昭京都大学防災研究所巨大災害研究センター長・教授が内定、発表
- 2.19 第6回「展示・交流検討委員会」開催
- 3.9 1期展示製作工事発注
- 4.22 第2回メモリアルセンターフォーラム開催
- 4.28 第7回「展示・交流検討委員会」開催
- 7.21 第1回研究員選考委員会開催
- 8.2 専任研究員選考試験第1次選考
- 8.4 第2回研究員選考委員会開催



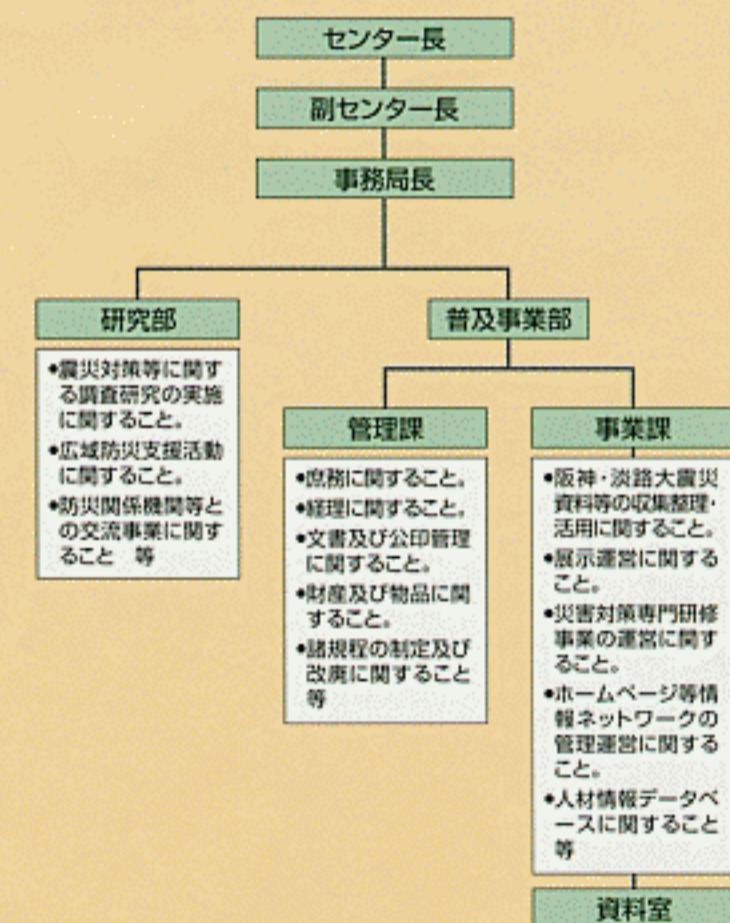
- 8.25 専任研究員選考試験第2次選考
- 8.25 第3回研究員選考委員会開催
- 8.29 専任研究員内定
- 10.10 2期建築工事発注
- 10.30 第1回人材育成カリキュラム等検討委員会開催
- 10.31 第1回名称募集審査委員会開催
- 11.9 2期建築工事安全祈願祭開催
- 11.27 第2回名称募集審査委員会開催
- 12.4 1期展示工事安全祈願祭開催
- 12.11 第1回展示監修者会議開催
- 12.19 第2回人材育成カリキュラム等検討委員会開催
- 12.19 2期展示製作委託発注

2002(平成14年)

- 1.7 正式名称を阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」に決定、発表
- 1.21 第2回展示監修者会議開催
- 2.1 第1回震災資料専門員選考委員会開催
- 2.6 震災資料専門員選考試験第1次選考
- 2.19 震災資料専門員選考試験第2次選考
- 2.19 第2回震災資料専門員選考委員会開催
- 3.31 1期施設完成
- 4.21 開設記念式典開催
- 4.27 1期展示一般公開開始



■人と防災未来センター組織図



to 4.27 2002

1.17シアター

センターを訪れた方々が、災害と防災についての知識をわかりやすく身につけていたくために、2階から4階にかけての展示ゾーンでは、「阪神・淡路大震災」の映像・資料を中心として、災害と防災に関しての幅広い展示を行っています。

ここでは、展示内容をピックアップしてシリーズでご紹介します。

その第1回目は「阪神・淡路大震災」の発生時の様子をリアリティある映像で再現した「1.17シアター」です。



1995年1月17日午前5時46分、まだほとんどの人々が寝静まるあの時間に何が起きたのか、その全容を目撃した人はいません。あの時、阪神・淡路地域にいったい何が起きたのか?この疑問に答えるために、科学的に実証されたデータに基づき、最新の特撮技術とコンピュータ・グラフィックス技術を駆使して「その時」を再現しました。

シアターは定員150名。日本で初めての、不定形多面体スクリーンを備えたインスタレーション・シアターの中で「その時」を体験したあと、あなたは意外な場所にいることに気づくでしょう…

監督はゴジラシリーズの特撮監督として有名な川北紘一。メモリアルセンター・フォーラムや展示検討委員会では、「被災者、遺族の気持ちを考えれば地震を再現する施設は見送るべき」「いや、あの恐ろしさを実感しないと教訓は伝わらない。」

と議論が白熱したこのシアター。さて、あなたはどう考えますか?まず体験してみてください!

(主な内容)

- 住 宅 地…激しく揺れて将棋倒しになる木造の住宅群や、タンスが倒れ天井が崩落する住宅内部
- 商 店 街…崩れる看板や倒れる自動販売機、瓦礫と化す建物、商品が崩れて乱れ飛ぶ店舗内部
- 都 市 部…大きく揺れるビル群、飛び散る窓ガラス、壁面に走るクラック、飛び散る壁、舞い上がる粉塵、中階層の崩壊する病院、5時46分を指したまま止まった時計
- 交通機関…電車がのめりこんで陥没・崩壊する駅舎、金属のきしみとともに波打つ線路、うねる道路でハンドルをとられて蛇行する自動車
- 地震火災…地震直後に火災が発生し、倒壊した木造家屋へ延焼していく様子



制作風景



完成映像より

INFORMATION

企画展

「がんばれ、がんばろう友情ギャラリー」の開催

■4月27日(土)～ ■2階企画展スペース

人と防災未来センターでは、2階の企画展スペースを利用して、企画展を開催していきます。

その第1回は、センターの収蔵資料の中から、復興に取り組む被災地の子どもたちに全国の小学生から寄せられた絵画を展示し、被災地が多くの方々に励まされ、助けられてここまで復興してきたことを振り返ります。

また、阪神・淡路大震災の経験を風化させることなく、次の世代へ継承していくため、毎年1月17日に被災地から発信している「1.17宣言」をあわせて展示し、阪神・淡路大震災からの復興に取り組む被災地の想いを伝えます。



清らかな水に守られた慰霊のモニュメント

尊い命を奪った阪神・淡路大震災。
犠牲者の鎮魂を込めて、センターでは建
物を取り巻くように配置された水盤に、亡く
なった方々全員の名簿を納めたモニュメン
トを設置しています。



人と防災未来センター友の会会員募集

特典／会報無料購読・無料入館
会費／個人会員…3,000円、家族会員…2,000円、
法人会員…50,000円(一口)
詳しくは下記までお問い合わせください。

平成15年春には2期施設がオープン(予定)

現在、工事が進行中の2期施設は来春にオープンが予定され
ています。ここでは、映像やインストラクターとのコミュニケーション
を通じて、大震災で再認識した「いのちの尊さと、共に生きること
の素晴らしさ」を
考え、体験する
場を提供します。

またアジア防
災センターをは
じめとする防災
関係機関も入居
する予定です。

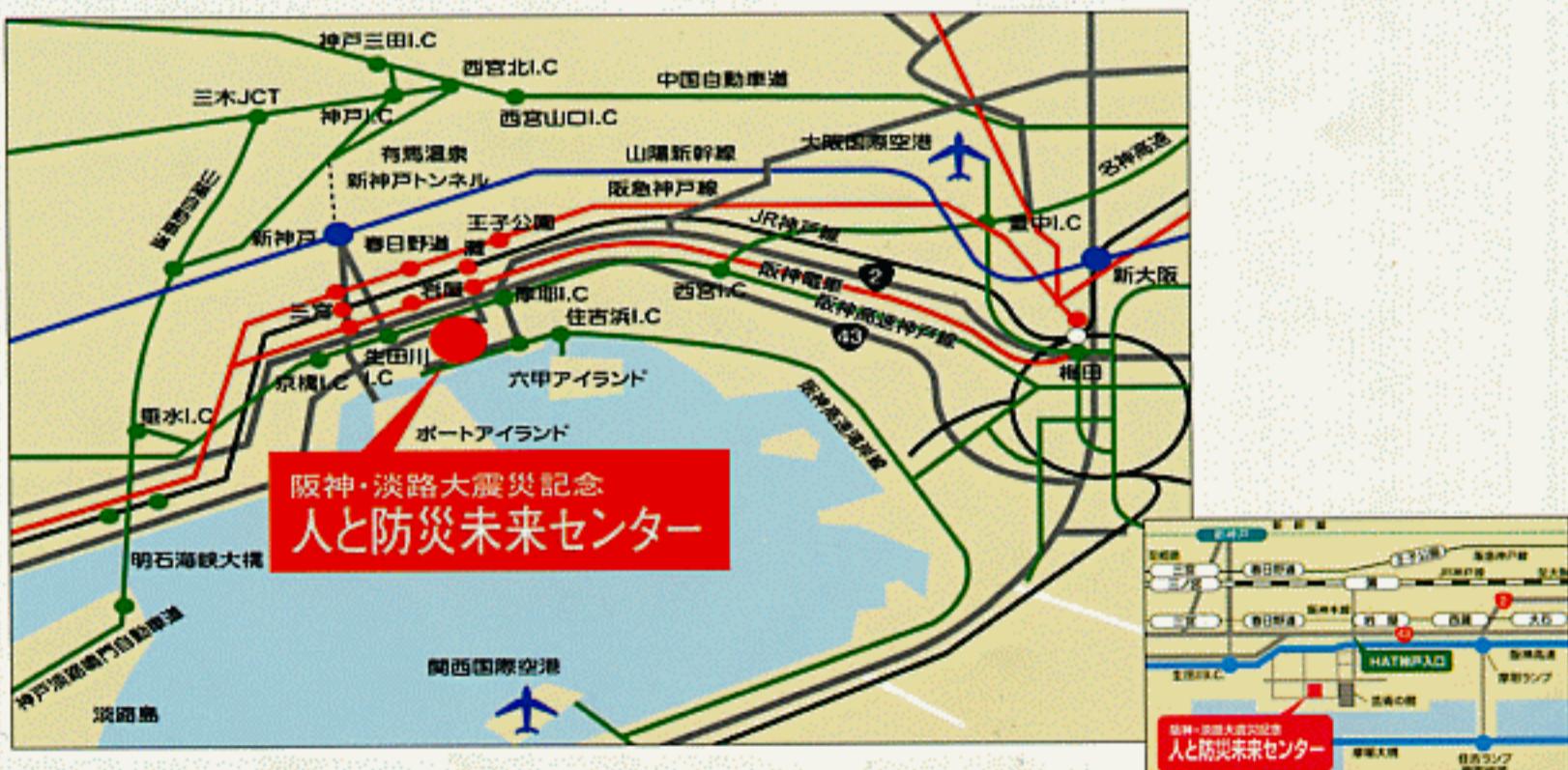


お問い合わせ先

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区臨浜海岸通1-5-2 TEL.(078)262-5050(観覧案内) / TEL.(078)262-5060(事務局) ホームページアドレス <http://www.dri.ne.jp/>

交通マップ



■開館時間／10:00～18:00(入館は17:00まで)

*金・土曜日は20:00まで(入館は19:00まで)

■休館日／月曜日

*月曜日が祝日の場合は翌日。12月31日、1月1日は休館

*ゴールデンウィーク、夏休みの期間中は無休

■入館料金／

区分	個人	団体(20名以上)
大人	500円	400円
高校・大学生	400円	320円
小・中学生	250円	200円

*兵庫県内の小・中学生はココロンカードを提示すれば無料です。

■駐車場／有料駐車場(普通車100台駐車可能)

このほか近隣にも駐車場があります。

■交 通／

鉄道/阪神「岩屋駅」から徒歩約8分・JR「灘駅」南口から徒歩約10分、
阪急「王子公園駅」西口から徒歩約15分

バス/JR・阪神・阪急・神戸市営地下鉄「三宮駅」から約15分

神戸市営バス 三宮駅前から約1時間間隔で運転

阪神電鉄バス 三宮駅前から約30分間隔で運転

車 / 阪神高速神戸線「生田川ランプ」から約3分、阪神高速神戸線「摩耶ランプ」から約4分、阪急・阪神・JR「三宮駅」から約10分